



UO, UO 7"ヨリ NO3. 2018. 6. 1

冬が去り・春が来り。今春 UO, UO の春の色の時間がはじまりです。
 色の時間では、水で薄らした紙に、水彩の絵の具の色を隔って
 いけます。使う色は、赤・青・黄の三色のみ。普通の絵の具は12色?
 ですか。つまらない... と思うかもしれませんが、これこそいいですね。
 この三色で、この世界中の色を生み出せるのです。(...とここで少し説明は
 います。) 薄らした紙に、水で溶いた絵の具をのせると、色は、
 広がります。そして、色は混ざり合います。独特な色彩模様を見えます。
 手紙から解放された色彩たちは、お互いに何で語り合います。色を
 繋ぎ合います。

まず、色と仲良くするところからはじめます。まずは一色のみの。
 [色紙] 黄色の体験紙。"黄色と水で遊ぶのが好き。黄色と、
 お友達に遊ぶように。" 子どもたちは筆を使って白い紙の上に黄色を
 おいけます。ぐるぐるぐるぐるの画面いっぱいに筆を動かして遊ぶ子。
 夏中には小さくまじり、7月2日外に広がります。筆が止まらず、
 赤の顔を見つめて遊ぶ子...。"色と水で遊ぶのが、次第に月前の
 白い紙は、黄色でいっぱいになります。2枚目は黄色と遊ぶ。1枚
 目の手紙も、このころの心は黄色に近かっています。

次の色の時間では、水で黄色と遊びます。そして2枚目、今度は新しい
 お友達、青の登場です。月前の世界は黄色から一変、青の世界
 になります。青は黄色と水で混ぜると違う気配と手紙のお友達です。
 このころは、月前に広がる変化に、大きな心を動かされます。
 ... このころは、色と水の色を充分に体験していきます。

次は色と色の出会いと体験です。これは黄色と青色です。
 画面いっぱいの黄色と青と水で混ぜると違う気配と手紙のお友達
 がいるのです。黄色と青色は、まさに正反対の気配と手紙の色同士、
 いうならば、光と闇のようなのです。

このころは、"ここに青は...!" と勢いよく入ってくる青
 が入ってきます。"ここに青は...?" と言うように、遠慮が
 入ってきます。どらどらどら大騒ぎです。そしてその瞬間、両者の
 手紙ある秘密が明らかになります。それは、黄色(光)と青色(闇)が
 まさに自分とは異なり、存在し、存在を世界に提示する。もちろん
 このころには、子どもたちは大騒ぎです。

私たち大人には、黄色と青色を混ぜると緑色になることは、
 子どものころから知っているおもしろいことですね。でも、実はとても不思議な
 ことですね。これは、絵の具の"色"の中の奇跡と神秘と
 不思議さに驚き、心は色と水で遊ぶのが、大騒ぎです。

このころは、色の時間では、"何の絵の具"を混ぜると
 色と水の色を体験するが大切になっています。色と水にはそれぞれ
 個性があり、その個性が自由に混ざり合います。混ぜるとまた
 この世界を生み出せます。そしてこのころは、紙の上で起きている
 ことを同時に、内面におもちゃ体験し、色彩の存在が、その
 自身の世界の中から語りかけてくるもの。心を通じます。

このころは、色彩と一体となる瞬間があります。その時、
 紙の上の色彩たちが、より一層生々しく喜ぶように、います。
 今春は、水で黄色と水で遊ぶ。UO, UO 春の色の時間、色と水で遊ぶのが、
 生み出す世界に、今からと楽しみます。小林 有希

お知らせ

・今年度は、子どもスタッフとして、休校日に、卒園生がびびりに遊びに来てくれます。よろしくお願ひいたします。

・ピンクオスタッフによる熊のおはなし

今年度も、ピンクオの熊4人の方が来訪して下さい。軽井沢の熊についての
おはなしをして下さいます。保護者の皆さまもどうぞご参加下さい。
日時 6月13日(水) 13時30分頃～ びびりの森

・びびりの森の内科健診

初夏のびびりの森で、園医の根津純子Dr. (おるいけわ純子クリニック) による
内科健診を行います。

日時 7月10日(火) お昼過ぎ～

健診内容 内診・触診

- ・当日、内診検査の衣類をご配慮下さい。
- ・根津純子Dr. にお関心な事柄が有りましたら、事前にお知らせ下さい。
- ・お近くにお住の方などが有りましたら、お知らせいたしますが、結果は「健康診断の記録」をお持ち下さい。「健康診断の記録」は、捺印後、びびりにお持ち下さい。

・4/4～29 (お休開所日)

4日(月) 6日(水) 7日(木) 8日(金) 11日(月) 13日(水)
14日(木) 18日(月) 25日(月) 27日(水) 28日(木) 29日(金)

・田んぼ・お出かけ予定、開所日に変更も有りますことをご了承下さい。

・えりんとたいむ 5日(水) 22日(金)
色の時間 11日(月) 25日(月)

・今年度のびびりページ目は、びびりに関わる様々な方が原稿をお寄せ下さいました。今回は、おおきくお色の時間」を担当して下さい。10年!!の小林郁絵さんです。卒園生の川越さんのご紹介でした。改めて出会いに感謝と感謝!! 郁絵さんを少しご紹介...
ドイツ、2-ゲントゼミナール(ジュニア教育)で一年学ぶ。スイス、バチアム絵画芸術学校(ジュニアの思想に基づく絵画芸術)に入学。5年学び卒業。ギリシャにて一年半暮らし、帰国。現在は、福祉の世界に携わっています。おはから、小豆は色彩のクラスを運営しています。

♀ 田畑日記

田植えは遅足、お疲れを覚えた。連休の春まで雨が降いて伸び、予定が早まっていた。申し訳無しのことで、たくさんのお力で無事に田植えを終えられ、感謝! です。
もう苗はしっかり根付き、周りの雑草を取り除いて田に入ってもびびりも伸びてきた。よその化学肥料で育った苗より小さいので、いろは「下の田んぼの方が後には植えたのに大きいね。違いはなんだ?」と聞かれました。「羊の糞の肥やしで育っているから、びびりの苗は小さいけれど、その方が病気にも寒さにも強く育っているんだ...」と話しました。田畑は子どもたちの気付きから会話が広がるのが好きです。先日も大豆の苗が大きくなってきつたので「定植するよ、二本ひと組にして植えてあげね」と言うと「二本じゃなく、どうして二本ずつ植えるの?」一本ずつ植えてもいいけれど、二本はお互い支え合えて強く育つんだと説明、それについて「?」と「?」と大夢が同い年合せて「おまけのうしろに立つと見え、羽路斗というはも同じように真ん中に立ち、大夢「一人で立つとより一組に立つと強くね」といって「寒い日もあつたからよく育つ」、羽路斗「大豆も2つ一組だと安心して育つね。」と話をかきまわすことができました。

羊たちの群れは激お動の春でした。新子に産まれ、命をうけてお世話、お世話... 生後一ヶ月のこりんごを残してお母さん(りんご母さん、文字通り)身を削りて産み育て、仲間の子羊に託してこりんごを見守るお母さんのおまじないのみならず、おまじないの身体に産まれ、お母さんの穴を命に産んでお母さんの重く大きな体験でした。産まれたおまじないのこりんごに何が出来るか考えられておまじないの、草を食べて始めたのでおまじないのローバーを摘んでおまじない、おまじないの食糧を食べておまじないの笑顔に産まれた。もう産まれているおまじない、おまじないもやるとおまじない、おまじないの毛刈りも見学。「おまじないの毛刈り、おまじない...」「おまじないの毛刈り...」おまじないの毛刈りも見学。「おまじないの毛刈り、おまじない...」「おまじないの毛刈り...」おまじないの毛刈りも見学。生命の営みと子どもたちと丁寧に生きていこうと思えます。 : 美和子